

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372601163		
法人名	有限会社 サカイケアセンター		
事業所名	もみじ園		
所在地	熊本県合志市野々島南原5427-1		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本3-13-12-205号
訪問調査日	平成25年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな通りから少し入り込んだ住宅街にあり、周りには畑や緑も多く、静かで落ち着いた環境の中にあるグループホームなので、のんびりと散歩をしながら、近所の花を眺めたり、犬に出合ったりとゆったりとした気持ちで毎日を暮らしている。理念でもある個人を尊重を第一に考え、個人々の生活スタイルにあった支援を行い、地域の方々にも正しく理解して頂けるよう近所づきあいも大切に、自治会の行事にも参加している。開設からずっといらっしゃる9年目の利用者さんと職員の関係も永く、以前から知り合いであったかのようにお互いの信頼関係も深くなり、本当の家族以上の仲になっている。自慢の菜園では四季折々の野菜がいつも収穫出来て季節の旬の味が作る喜びと食べる喜びと2つが楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して9年、地域の中での生活基盤は確立し、今年度はホームの救急救命研修に地域一体で取り組んでいる。この1年職員の入れ替わりもなく、福祉作業として率先して農作業に取り組む入居者や自分に叱咤激励しながら歩行訓練に取り組む姿は生き生きとしており、主体的な生活が繰り広げられている。定期的に発行するもみじ園だより“すまいる”による状況報告の継続は家族の安心感に繋げ、絶大な信頼が得られている事はアンケートにより確認できた。高齢化する入居者対応に気づきノートや事故発生時対応マニュアル等を新たに作成し、転倒ゼロを目標として理念の一つである“仲良く 楽しく”の実現に真摯に取り組んでおり、入居者と職員とが全員でドライブや花見等に出かける仲の良いホームが形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は簡潔な言葉で表現し、玄関とリビングのみんなが見える所に掲示している。基本理念をいつも目にする事で、理念の浸透を図り、全職員が理念に沿って介護が実践できるようにしている。	“個人を尊重 地域と共に 仲良く楽しく”を基本理念として、各項目を具現化して示し、玄関や共有空間への掲示により意識付けとしている。ミーティングの中で理念や行動規範を確認し、高齢化する中で仲良く楽しく過ごすために転倒事故ゼロを目指している。	管理者は入居者のその時々の違いにどのように対応するか考えたケアに取り組むことを指導し、職員は観察力や気づきを持ってケアに取り組んでいる。ホームが目指す取り組みを年間目標として掲げることで、ホームの姿勢を発信いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板で案内を回してもらい、公民館で救急救命講座を実施したり、ボランティアを招き利用者との交流の機会を作ったり、近くの障がい者施設からパンの販売に来てもらったり等している。又、施設で自治会にも加入し、自治会の活動にできる限り参加するように努めている。	自治会に加入し初寄り合いへの参加や回覧板により地域情報をリサーチした清掃活動への参加、ホーム側も回覧板を介して救急救命講座を案内し一緒に取り組む等地域の一員として活動している。ボランティアや障害者施設との相互交流(パン販売訪問の継続、障害者施設の夏祭り見学等)等、地域の中での確固たる基盤が作られている。また、専門学校の実習を受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域やボランティアの方々との交流の機会を作ることで、運営推進会議の場で家族や地域の方に施設で行っている勉強会や施設の様子を伝えること等により、地域の方々の認知症の理解につながるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実績や施設で行った行事、事故報告、施設内外の研修報告等を行った後、疑問点や要望等の意見交換を行っている。会議で頂いた意見・要望に対しては、すぐに改善できるように努めている。	定例化した運営推進会議は、委員の希望により開催時間を変更している。実績・実施行事・研修や事故等の報告による意見交換や、毎回ホーム内外研修参加時の資料をもとに説明している。また、参加委員から出された課題や要望は随時検討し、進捗状況を説明している。参加委員の質問や家族の要望等をサービス向上に反映させたことは、地域住民との救急救命研修等に表れており、有意義な会議である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の職員の方にも参加してもらい、施設の状況、利用者の方々の様子等伝えているが、積極的に協力関係を築くまでには至っていない。	運営推進会議参加時に行政から地域高齢者の現状やスプリンクラー設置義務等の説明が行われ、書類提出時の不明な点を尋ねることはあるものの必要最低限の関わりである。社協からは空き状況の問い合わせや紹介による入居に至ったケースもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については勉強会でも取り組み、拘束のない介護に向け、職員の意識統一を図っている。玄関の施錠も夜間のみ行っており、日中、利用者は外に出て庭を眺めたり、畑仕事をしたり、散歩に出たり等、自由に活動できる。	身体拘束は行わないことを行動指針の中で謳い、外部研修へ参加した職員が運営推進会議の中でも説明している。拘束及び虐待の弊害を全員が正しく認識し、外出傾向を察知し、職員は寄り添いのケアに徹し、一緒に散歩に出かけたり、敷地内を自由に散歩する方等玄関や裏口等開錠し自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に虐待についても勉強会を行い、施設内での虐待防止に努めている。身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待、言葉での虐待についてもミーティング等で確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する研修会に参加し学んでいる。必要であれば相談の上、すぐに活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、契約に関して家族が納得されるまで、不安や疑問点について説明しており、入居後も家族の不安や疑問点には、いつでも相談を受け、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や家意見箱を設置し、いつでも苦情や意見が出せるようにしており、市役所や国保連のパンフレット・連絡先等も掲示している。運営推進会議でも家族の意見を聞くようにしており、利用者からは日常の会話の中から意見をくみ取るようにしている。	入居者とは傾聴や寄添いのケア、関わりの中で要望等を把握しており、自由に遠慮なく申し出られている。家族からは訪問時に要望等が出されており、「いままでの生活を変えないでほしい」等が出されている。運営推進会議や家族会も開催しているが、参加が少なく呼びかけを工夫する予定である。意見箱を設置し、公的苦情相談窓口を掲示している。	“すまいる”と命名した園便りに運営推進会議への参加案内や職員より個別にコメントを入れ全家族へ配布されている。運営推進会議の意見等を抜粋し園便りに掲載したり、意見等を直接申し出ることが難しいような案件は家族のみでの話し合いの場を作ること等検討して頂き、今後も家族の意見や提案をホーム運営に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを行い、その場で職員の意見や提案を聞いている。それ以外でも何か意見や提案があれば、いつでも相談に応じるようにしている。	管理者は日々職員の要望や提案をその場で話し合う等話しやすい環境を作っている。毎月のミーティングの中で業務等について検討し、今年度は気づきノートをスタートさせ事故防止に努めている。また、希望休の採用や役割分担等、責任あるケアにより働きがいに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況を把握し、休みや欠勤はチェックし、個々の動きにも目を配っている。仕事の内容や動きに応じて役付けを決定し、責任のある仕事を担当してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会や年4回行われる鹿本・菊池ブロック研修会には、職員のレベルに応じて交代で参加するようにしている。その他の研修会にも職員に参加を呼びかけ、参加後は伝達講習の場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池ブロック会議には必ず参加するようにしている。また、同業者との交流の機会がある時には、積極的に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞く中で、困っていることや不安なこと、今までできていたことややりたいこと等を知り、必要な情報を職員に周知した上で、職員が接するようにし、少しずつ新しい環境に馴染み、安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から、困っていることや不安なこと、して欲しいこと等をよく聞いた上で、施設がこれからそれにどう対応していくかを伝え、家族が安心して利用者のことを任せられる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を詳しく聞いた上で、本当にグループホーム入所が必要であるかを判断し、もし他のサービスの方が本人・家族にとって必要なサービスであれば、そのサービスを紹介する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活の中から、利用者一人ひとりができること、得意なことを大切に、畑仕事や食事作りの手伝い、洗濯や掃除の手伝い等、職員と一緒にその人ができることをしてもらっている。役割を持つことで生活の張りやいきがいにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事にはできる限り家族にも参加してもらい、一緒に外出したり、食事を摂ったり等することにより、本人と家族との触れ合いの場を作っている。又、家族が気軽に面会に来て、本人だけでなく、職員ともゆっくり話ができる雰囲気作りも心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、友人や知人の面会時もゆっくり過ごせるように配慮している。本人から電話をして欲しいと言われた時には、電話をかけるのを手伝い、話をしてもらっている。入居の際には馴染みの物を持って来てもらい、居室が安心して寛げる場になるように支援している。	家族の訪問の他知人や友人の定期的な訪問、病院受診時に自宅の様子確認に立ち寄る人、家族との墓参や友人と選挙に出かける入居者等馴染みの人・場所や社会性の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室以外で利用者が一人にならないように、体操したり、歌を歌ったり、みんなでゲームをしたり等のレクリエーションを提供している。リビングの席も利用者の性格や相性を考慮した上で決め、利用者同士で楽しく関わることができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了する時は入院になるケースが殆どであり、入院中は職員が交代でお見舞いに行っている。残念ながら亡くなられた時には、お通夜や葬儀に出席し、お別れをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に得た本人のこれまでの生活の情報や本人との会話の中で、希望や意向をくみ取り、出来る限りその思いに沿うように支援している。必要な情報を職員全員に周知し、みんなで支援の方法を検討している。	職員は日々の生活、関わりの中で思いを引き出し、会話の中での選択肢等により本人の意思を尊重している。問題発生等何かあるとその都度話し合い、まずはやってみる、行動を起こすことを全員が心一つにケアに反映させている。意思疎通困難な状況にうなづき等により真意を見極め、本人本位の生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や習慣等が出来る限り継続できるように、入居の際にこれまでの生活の情報を本人や家族に聞き取りを行ったり、居宅支援事業所から必要な情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録やバイタルサインのチェック、申し送り等からの情報と、一緒に過ごす中での一人ひとりの表情や言動の観察により、心身の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向と本人の現在の状態から、課題を分析し、ミーティングや担当者会議の場で計画に関する意見を出し合い、計画を作成している。	新ケアマジャーとなり更新に合わせアセスメントを取り直し、毎月のミーティングのなかで職員の意見等を把握し、家族の都合に合わせて担当者会議を開催し正式のプランを策定している。介護認定更新時には再作成することとして、心身の変化に応じた追加・修正等、詳細で具体的なプランが作成されている。日々の記録方法もSOAPを徹底し、プランに反映させるようスタートさせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯と夜勤帯で日々の様子や実践したケア、職員が気づいたこと等個別記録に記入している。個別記録から情報を共有することにより、統一したケアの実践や介護計画の見直しにつながるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢であり、様々な病気や口腔の問題を抱えている利用者が多い。食の楽しみにつながる口腔の問題に対しては、歯科の訪問診療を利用し、口腔ケア(義歯や残歯のケア)の充実に努め、必要に応じて歯科治療も受けている。必要であれば、訪問看護や往診による診察も可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は十分とは言えないが、ボランティアによる歌や踊りの慰問、近くの中学校の福祉体験の受け入れ、消防署による避難訓練や消火訓練、地域の防災訓練などでの交流を通して、地域の中で楽しく安全に生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医への受診方法を家族と相談し、定期受診は家族が、それ以外の緊急を要する受診は事業所で対応している。病状の変化などで主治医との面談が必要な場合は、本人・家族と一緒に看護職員も同行し、受診している。	入居前からのかかりつけ医を継続し、家族の訪問にも繋がる事から定期受診を家族対応と、状況により職員が対応している。医療機関への情報提供や受診結果を家族と共有し、バイタルチェックや様子観察で異常の早期発見に努めている。又、訪問歯科や状態に応じては往診・訪問看護を受けられる体制を取り、適切な医療受診ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルサインのチェック、一般状態の観察を行い、日頃の様子と違うことがあれば、すぐに看護職員に報告し、相談している。病院受診時には必要な情報を看護職員が家族に伝えたり、主治医に受診報告書を作成するなどしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者の居室を確保し、定期的に病院に出向き、治療経過を確認しながら、退院に向けて病院や家族と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、看取りに関する指針を説明している。訪問看護や往診による診察が必要である場合は、家族と相談し、職員にも話し、職員と医療関係者で協力して支援できるようにしていきたい。	看取り指針を作成し、入居時に説明を行っている。心身機能低下や病状悪化等段階的な話し合いにより家族の希望を確認している。医療の依存度が低く条件が揃えば訪問看護等との連携により、出来る限りホームで支えていきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員がマニュアルに沿って対応できるように取り組んでいる。5月には心肺蘇生とAEDについての講習会も開催した。今後も定期的に講習会を開催したり、勉強会を行い、職員が実践力を身につけることが出来るようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼し、日中及び夜間想定避難訓練や消火訓練を行っている。夜間想定訓練には地域の方の参加もあった。また、地域の災害訓練や自治会が行う火災訓練にも参加し、日頃から地域の方々の協力が得られるように取り組んでいる。	年2回消防署立会いの総合訓練には近隣住民も参加し、夜間想定時の避難誘導に協力されている。又、地域の消火栓が近くであり、自治会の訓練にも参加し、ホームで企画した緊急心肺蘇生の講習会には地域からの多く参加があり協力関係が構築されている。毎日の火元チェックでまずは火を出さない事を意識付けし、スプリンクラー等整備されている。	今後も、非常持ち出し品の整備や備蓄について検討し、有事に備えていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線の高さを合わせることで、一人ひとりの思いや生活過程を尊重した言葉かけや対応を心がけ、支援を行っている。	接遇マナーの研修を実施し、入居者目線での言葉かけや誇りを損ねない対応に努め、理念の「個人を尊重」を実践している。職員は常に“笑顔”“優しさ”“思いやり”を念頭に、入居者の笑顔の引き出しに努め、入浴時や排泄時のプライバシーにも十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を確認した上で、支援を行っている。言葉で希望を伝えられない利用者に対しては、表情や様子を見ながら支援している。日中の様々な活動への参加も自由であり、本人の希望や決定を尊重している。何でも言える馴染みの関係を作ることを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペースを職員が把握しており、それに合わせた支援を心がけている。本人がしたいこと、できることを、本人のペースに合わせて自分でできるように支援することで生活の張りや楽しみ、いきがいにもつながっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容院を利用し、カットやカラーリング、パーマもできるし、近所の理容室に散髪に行く利用者もいる。本人や家族が希望すれば、他の店の利用も自由である。外出や誕生会等の行事の際は、おしゃれな服を着たり、化粧をしたりする人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食や畑で採れた野菜を使った献立を提供することで、食の楽しみにつながるようにしている。野菜を切る、お盆の準備、盛り付け、配膳等それぞれできる所を職員と一緒にしてもらい、みんなで一緒に食べながら、楽しく、おいしい食事の時間を過ごしている。	入居者の好みを取り入れた献立を作成し、近隣商店からの食材の配達や、入居者が手入れに精を出される畑の野菜が食卓に上り会話も弾んでいる。入居者も下ごしらえや配膳等出来る事を一緒に行い、季節毎の行事食や戸外での弁当・ソーメン流し等楽しい食事を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの咀嚼・嚥下状態、好みに合わせた食事を提供し、摂取量を毎食チェックしている。水分は毎食時、入浴後、10時・15時・20時前に飲み物を準備し、それ以外でも自由に飲めるようにしている。なかなか飲もうとしない利用者には細目に少量ずつ水分を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシを準備し、歯磨きを促している。自分で義歯や残歯を磨けない利用者や磨き残しが多い利用者は、介助を行っている。歯がない利用者は含漱を行い、口腔内の食物残渣を取り除いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は紙パンツを使用している利用者もいるが、日中は布のパンツに尿取りパットを使用し、トイレに誘導している。排泄チェック表を記入し、排泄の間隔をつかみ、時間誘導につなげている。	排泄の自立した方等や排泄チェック表をもとにパターンを把握し声かけや誘導によるトイレでの排泄支援等個別対応に努めている。又、下着を昼夜で使い分けたり、夜間でもトイレに誘導したり、夜間時のみのポータブル使用等個々に合わせ失敗のない快適な支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足や腹圧の低下が考えられるため、ラジオ体操に加え、きくちゃん体操、腹筋や腸の動きを刺激する運動、歩行運動を行っている。食事にはできるだけ繊維の多い物を取り入れ、ヨーグルトや乳酸菌飲料、十分な水分の摂取を促している。また共同生活の中でゆっくり便座できる工夫も必要である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者に合わせ、希望があればいつでも入浴できるようにしてある。入浴する、しないは利用者の意思を尊重するが、入浴できる身体状態で入浴拒否が続くようであれば、健康面・衛生面を考慮し、職員が話をし、納得を得た上で、入浴につなげている。	入居者の希望に応じ毎日午後から入浴を支援している。入居者個々に応じた湯温調整や一人での入浴を希望される方への安全対策を検討し、浴室はりホームされ、ゆったりとした入浴時間を作っている。また、関連事業所の温泉に出かけたり、ゆず湯やしょうぶ湯等を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態を把握し、不眠があれば、日中の様子を観察し、活動や生活リズムを整える支援を行っている。日中リビングのソファや居室で午睡をする利用者もいるが、長時間にならないようにしている。その他ベランダでゆっくり日光浴をしたり、一人ひとりゆっくり休息がとれるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は看護職員が管理し、一人ひとり1回分づつまとめ、日付や名前を明記している。1回分の薬を必ず2名の職員で確認し、本人に手渡し、服薬を確認している。だが、薬の内容や副作用まで全ての職員が把握できてはいない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや洗濯物干し、洗濯物たたみ、花壇の手入れや畑での野菜作り等、生活歴から、その人のできること・得意なことを職員と一緒にやっている。花壇を眺めたり、花を活けたり、毎日散歩したり、好きな煙草を買いに行ったり、一人ひとりが役割や楽しみを持つことができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は庭で日光浴をしたり、散歩したり、近所の店に買い物に行ったり、希望があればドライブに出かけたりしている。季節の花見や芝居見物等の外出には参加できる家族には一緒に行ってもらい、楽しい時間を共に過ごすことができるように支援している。	入居者は畑の手入れや玄関先・庭での日光浴の他、自由にホーム周りの散歩に出かけている。“老いて楽しく”をモットーに、併設サービスの夏祭りに出かけたり、植木市や芝居見物、季節毎の花見(さくら・ばら・はす・コスモス等)への外出等天候や体調に合わせ支援しており、理念である“共に楽しく”を実現している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者には、管理できる金額が入った財布を自分で管理してもらい、自由に買い物に行ってもらっている。近所の理容室に散髪にも行ったりもしている。管理ができない利用者については、家族から預かり施設で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも自由に家族や知人にかけることができる。自分で電話をかけることができない利用者は、職員が代わってかけ、話してもらっている。家族から時々手紙や年賀状が届くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はゆっくり座って外を眺めたり、靴の脱ぎ履きができるようにソファを置いている。広く長い廊下を進みリビングに行くと、みんなでレクリエーションや食事を楽しんだり、ゆっくりテレビを見たり等できる空間になっている。玄関やリビングには季節の花を飾り、季節行事の装飾をしたりしている。共同空間はいつも清潔に保ち、気持ち良く利用できるようにしている。	玄関先やホーム内の花々が季節感を醸し出し、バリアフリーの徹底したホーム内はリビングを中心に居室を配置し、広い廊下での歩行訓練や掲示場所として利用している。身体機能低下により見守りを徹底するためドアを外しオープンにしたり、和室の環境整備等に取組み、夏場の緑のカーテンは収穫の喜びにも繋がり、温湿度管理や換気を行い快適に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下のソファで気の合った利用者同士おしゃべりを楽しんだり、リビングのソファに座り一人でゆっくりテレビを見たり、一人ひとり自由に過ごしている。天気の良い日は最初は利用者一人がベランダに出て日光浴をしているが、次々に他の利用者もベランダに出て、そこでまたおしゃべりが始まる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは施設で用意しているが、他の物は自由に好きな物を持ち込むことができる。家族と相談しながら、本人が使いやすい物、馴染の物を持って来てもらい、自宅と同じように寛いで過ごすことができるように支援している。	入居者がこれまで使用していたタンスや椅子・位牌等を持ち込み自宅での生活を継続した部屋や、必要最小限の持ち込み等家族と相談しながら居心地良い環境整備に取り組んでいる。職員のアイデアによる写真の掲示や、一緒に掃除や換気を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーで車椅子での移動もできる。廊下やトイレ、浴室、リビングの必要な個所には全て手すりを設置している。居室の入口には名前や写真を貼り、自分の居室をわかりやすくしている。トイレの表示もわかりやすくし、間違えずにトイレに行くことができるようにしている。		